



学校図書館資料としての新聞記事データベース

—レポート作成の授業を中心に—



齊藤 麻里江

<抄録>

学校図書館は学習情報センターとして生徒と教職員の要望に合う資料を提供することが求められる。本稿では国語科のレポート作成の授業内容を紹介します。新聞記事データベースの資料としての強みについて考えたい。

<キーワード>

学校図書館、データベース、新聞、レポート

1 はじめに

宮城県名取北高等学校は生徒数約 840 名の普通科高校である。校訓「人間愛創造貢献」に基づき、生徒の「総合知」を向上させ、骨太な生徒を育成することを目指している。生徒の進路は大学、短大、専門学校への進学が9割を占めており、進路指導も熱心に行われている。

本校は大規模改修が行われ、図書館も平成 24 年に改修が完了した。図書館の環境が整い、更なる生徒たちの利用を目指すため進路指導の資料充実を計画した。具体的には、進路指導関係の本を揃えることと新聞記事データベース「朝日けんさくくん」の導入を行った。

データベース導入の理由は2つある。1つは生徒が新聞に触れる機会を増やしたかったからだ。図書館では新聞を2紙用意しているがあまり利用されていなかった。生徒がいざ推薦入試の準備で新聞を利用しようとしても自分のほしい資料を探せないこともあった。データベースはこの状況を変える資料になるのではと考えたのだ。2つ目の理由はデータベースをコンピュータ室に導入することでクラス全員が同時に使用でき、授業にも活用しやすいと推測されたからだ。

本稿では新聞記事データベースを導入後、どのように活用してきたのかを昨年度の3学年の現代文における言語活動の事例を踏まえ紹介したい。またデータベースの強み、授業実践の図書館への効果、その後の取り組みについても触れたい。

2 レポート作成の授業での活用

生徒に主体的な学びをさせたいという国語科教員の熱い思いを受け、図書館と情報科がタッグを組み、レポート作成の授業が実施された。授業の流れは以下の通りである。

- 1 評論「サンチョパンサに持ち込まれた難題」で「論理的思考」を学ぶ
- 2 ドキュメンタリー映画「おいしいコーヒーの真実」を視聴
- 3 「おいしいコーヒーの真実」で発見した問題から各自テーマを設定し、解決の仮説を立てる
- 4 問題と仮説について情報収集を行う
- 5 レポートを作成する
- 6 レポートの自己評価と他己評価し、推敲を行う

図書館は3と4を中心に授業支援を行ったが、司書は2～6において可能な限り授業に参加させてもらい、生徒の実態把握や必要な資料の提供を行った。

3 情報収集の指導

レポートのテーマは生徒の課題意識によってさまざまな分野にわたった。例えば「フェアトレードの普及」、「灌漑設備を充実させるにはどうするか」、「子どもたちの教育の充実」、「医療のボランティアの在り方」などである。

レポート作成の資料は図書館資料、コンピュータ室で使用できる「朝日けんさくくん」、インターネット上の情報を使用した。

資料収集は図書館からスタートした。まず、図書館で司書が図書館での資料の探し方を説明し役に立つ資料の紹介を行った。生徒に館内案内図を渡し、辞書事典やレポート作成に関係ありそうな書架を説明した。生徒自身の力で資料を探させたいという国語科教員の要望を受けて説明は簡潔に行った。次に、資料を手にとってから必要な情報をどのようにすれば効率よく発見できるかを説明した。目次に注目して内容を把握することや奥付の意

SAITO, Marie : 宮城県名取北高等学校 (宮城県名取市増田字柳田 103)

味について説明すると生徒が本を選ぶスピードも上がった。

図書館の次はコンピュータ室で情報収集を行った。ここでは国語科教員、情報科教員、司書の3人体制で授業を行った。国語科教員は主にレポート作成の手順や書式について説明をし、情報科教員は情報の信憑性を確かめること「and,or,not検索」を説明した。司書は「朝日けんさくくん」の検索方法と機能を紹介した。このようにそれぞれの立場から話をすることで生徒にさまざまな角度から指導ができた。また、机間指導も手厚く行うことができた。

4 データベース資料の強み

新聞は生徒にとって馴染みの薄いメディアになっている。新聞に目を通す生徒は少なく、新聞を購読していない家庭も増えてきている。生徒たちはニュースを知るときはインターネットやテレビを利用することが多い。しかし、それではごく限られたニュースを浅く知ることしかできず、自分に引きつけてじっくり考えることができない。「朝日けんさくくん」を導入したことで生徒が新聞に触れる機会は増加した。生徒はネット上で検索することは慣れており、「朝日けんさくくん」の記事検索機能を使いこなせるようになるのも早かった。生徒からは記事が効率よく探せ、大変便利であるという声が多く聞かれた。

残念ながら新聞から関連記事を直接探し出すというスキルは育たないが、ある事柄についての長期にわたる情報や関連事項を検索できるのは強みであった。例えば、「フェアトレード」という言葉が使われ始めた時期や普及が進んでいった様子も追うことができた。

また、記事を印刷すると引用元が明記されていることも学習の際に役に立った。生徒は引用元の情報をしっかり把握し、引用の記述の仕方を学ぶことができた。

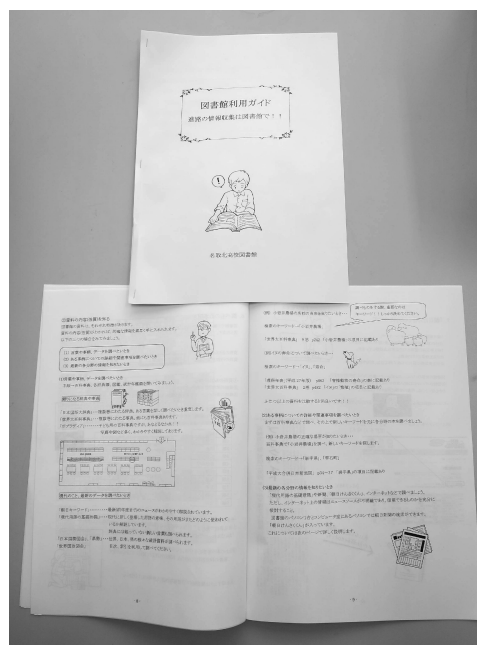
5 授業実践が図書館へもたらした効果

生徒が図書館へ足を運びやすくなったことはもちろんだが、授業に司書が入ったことにより司書と生徒との距離が縮まった。資料検索で困ったとき、司書に声をかけてよいことがわかったようでレファレンスも増えた。

司書が授業にかかわることで生徒の実態を把握できたことも大きな収穫であった。生徒の書くレポートに目を通すことで、生徒の文章作成のレベルが実感できた。それによって、選書もより実態を反映したものに変わってきた。

6 その後の取り組み

今年度、総合的な学習の時間で「朝日けんさくくん」について説明する時間を設定した。授業外でも自主的に新聞記事データベースを使えるようにするのが目的だった。小論文を書く際、材料がなければ中身がない文章になってしまうこと、書くためには本や新聞を読む必要があることを説明した。新聞を読むことの必要性を述べた後、実際「朝日けんさくくん」を使用する時間を設けた。加えて、図書館の資料のアピールも行い「図書館ガイド」を配布した。



〈写真 図書館ガイド〉

また、教員がデータベースを教材研究等でも利用できるように職員室にパソコンを設置した。そこで「朝日けんさくくん」と図書館の蔵書検索を行えるように整備した。

7 おわりに

図書館としては、利用者である生徒にとって有効な資料を揃えることが求められる。データベースはその可能性が充分にある。調べ学習で自館の資料で間に合わない場合、近隣の公共図書館から借りることもある。しかし、それでも十分な資料が揃わないとき「朝日けんさくくん」のようなデータベースの力を借りることも1つの手だ。学校図書館はメディアの発展を受け、利用者である生徒や教職員にどのような資料を提供できるかを常に考えていく姿勢を保っていきたい。